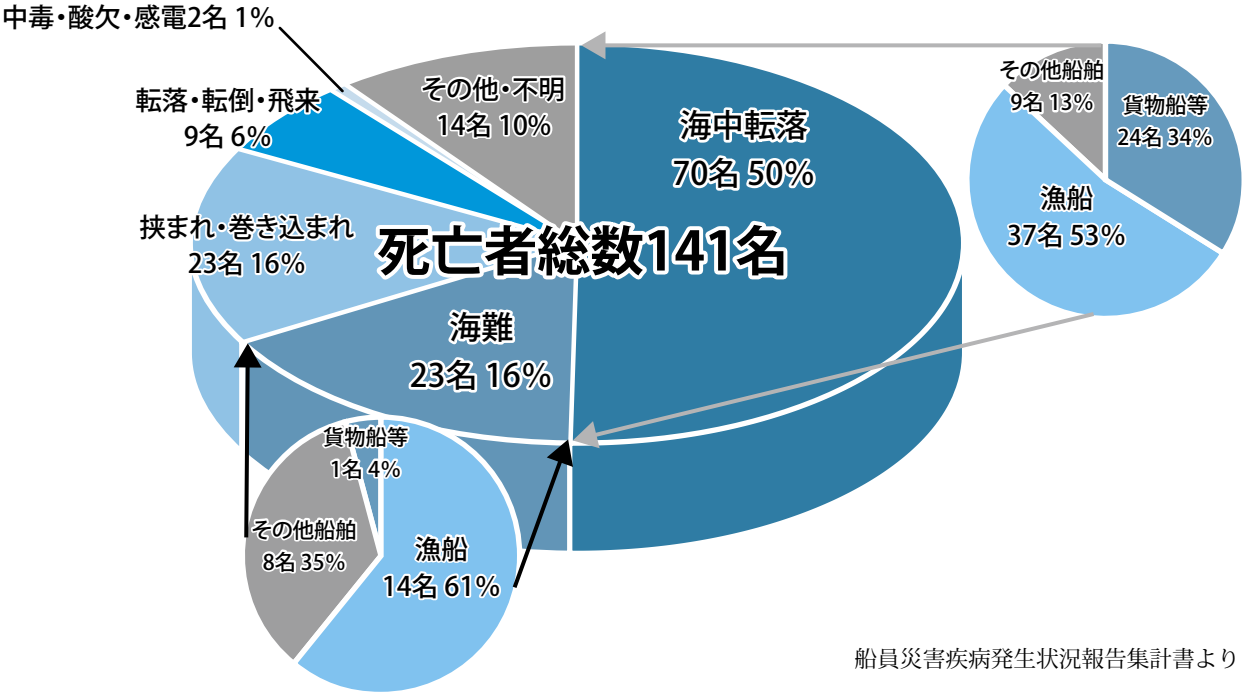


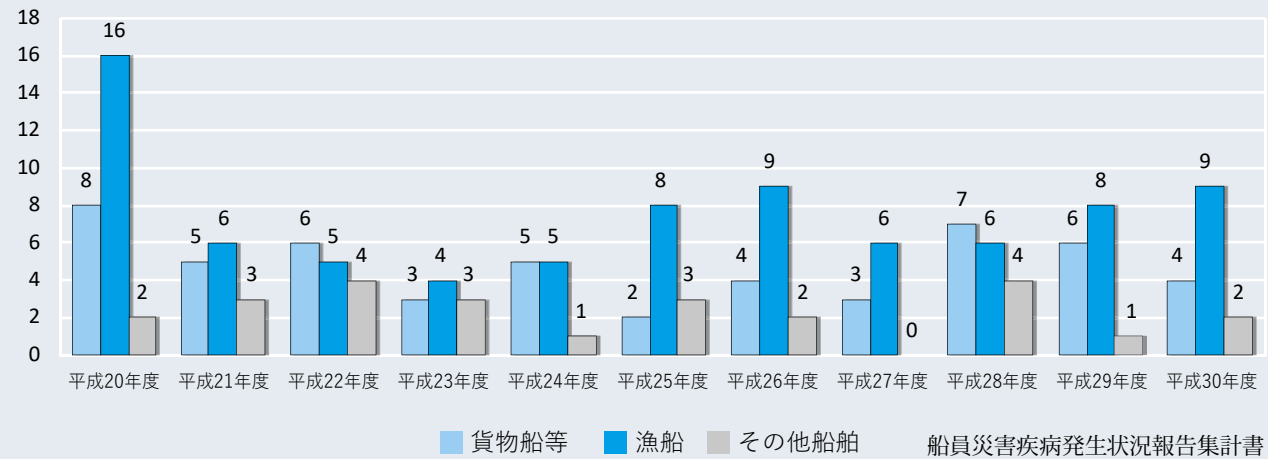
船員の死亡災害は海中転落が最も多い

死亡災害発生状況 5年累計(H26-30年度)



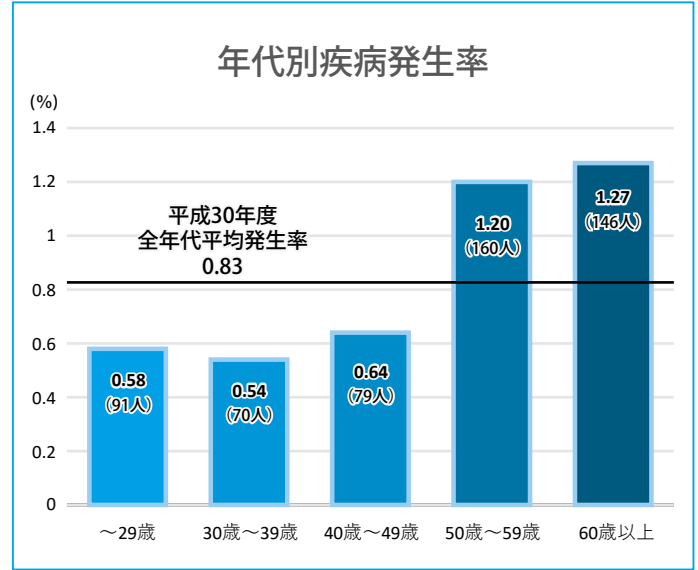
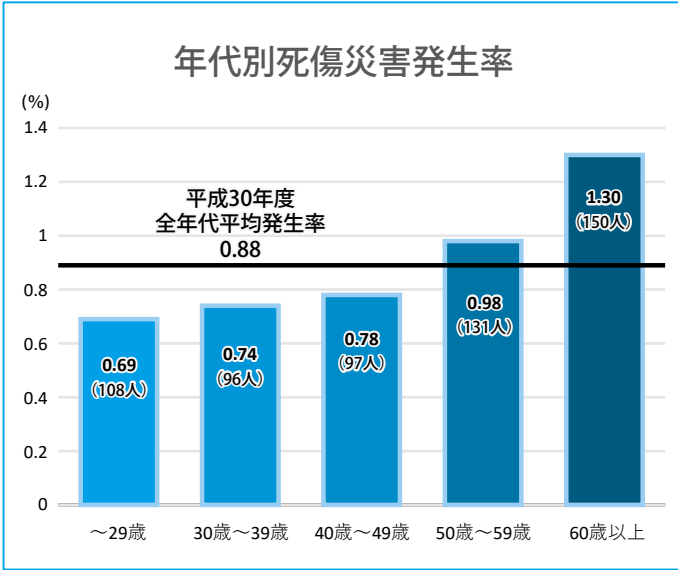
5年間の死亡災害を円グラフで示したものです。なかでも、海中転落による死亡者数は70名50%にもおよびます。海中転落の原因は、「荒天時、波にさらわれた」、「漁具に巻き込まれて転落」、「単独作業中の転落」など、多岐にわたります。また、海中転落、海難ともに漁船での発生が多く、その割合は、海中転落では37名53%、海難では14名61%と高い割合を示しています。「救命衣の着用」、「荒天時の操業は控える」、「暴露甲板上での単独作業を行わない」などの安全対策を講じましょう。

年度別海中転落による死亡者数（船種別）



高年齢船員の死傷災害・疾病発生

令和2年度船員災害防止実施計画より

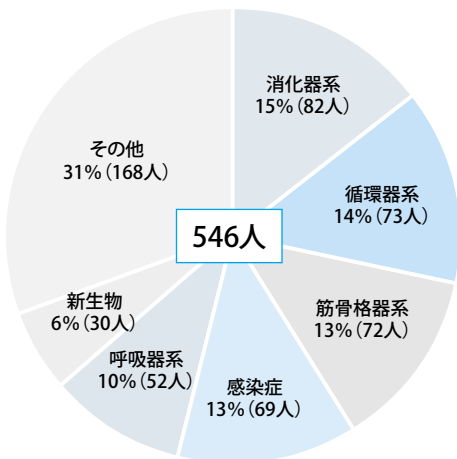


平成30年度の年代別死傷災害発生率では、60歳以上の高年齢船員の割合が非常に高くなっています。その原因として、「加齢による身体機能の衰えから適切な動作がとれなくなる」、「慣れから来る油断」、「自己流の一人作業」などが挙げられます。

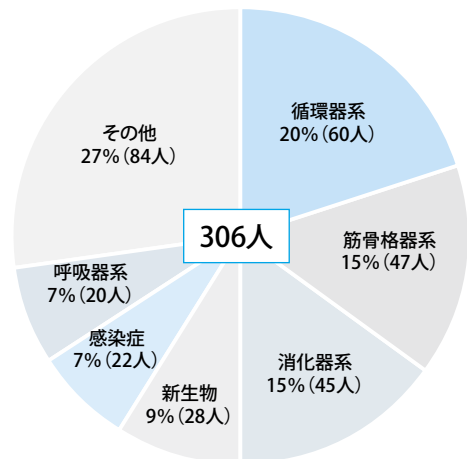
まず、自らの体力を把握し、適度な運動を継続して体力の維持・増強に努めましょう。また、他の乗組員とのコミュニケーションを大切にするとともに、慣れた作業でも初心を忘れず、安全第一として業務を遂行しましょう。

疾病の種類別発生状況

全船員



高年齢船員



全船員の疾病の種類別発生状況では、その他疾患を除いて消化器系疾患、循環器系疾患、筋骨格系疾患、感染症が高い割合を示しています。

高年齢船員では、高血圧などの循環器系疾患の発生が多く、次いで同一の割合で筋骨格系疾患と消化器系疾患、新生物（ガン）などが多く発生しています。これらは、いずれも生活習慣病が大いに関わっています。健康のリーフレットも参考に頂き、健康維持に努めるよう心掛けましょう。

「望まない受動喫煙」をなくすために

受動喫煙とは 非喫煙者がたばこの煙を吸わされること

たばこの煙は3種類

主流煙：喫煙者が直接吸い込む煙
 呼出煙こしゅつえん：喫煙者が吐き出す煙
 副流煙：火のついたタバコの先端から立ち上がる煙



受動喫煙は呼出煙と副流煙だが、有害物質が多いのは

	有害物質	主流煙の	有害物質	主流煙の
副流煙	タール	3.4倍	一酸化炭素	4.7倍
	ニコチン	2.8倍	アンモニア	46.0倍

受動喫煙で起こる症状

頭痛 頻拍 皮膚温低下 血圧上昇 血液が固まりやすくなる

受動喫煙の危険度が高い人

妊婦：流産、早産 胎児：発育障害、出生時低体重 乳児：SIDS
 子供：肺炎、気管支炎、気管支喘息、中耳炎、全身麻酔のトラブル

SIDS：乳幼児突然死症候群

受動喫煙によってリスクが高まる病気

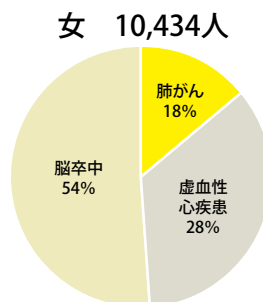
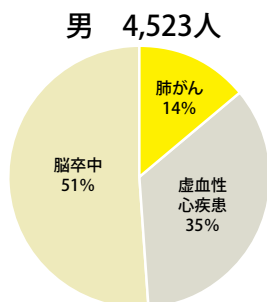
肺がん (1.3倍) 脳卒中 (1.3倍) 虚血性心疾患 (1.2倍) SIDS (4.7倍)

() 受動喫煙を受けていない者に比べた倍率

受動喫煙による年間死亡数推計値

年間15,000人が死亡

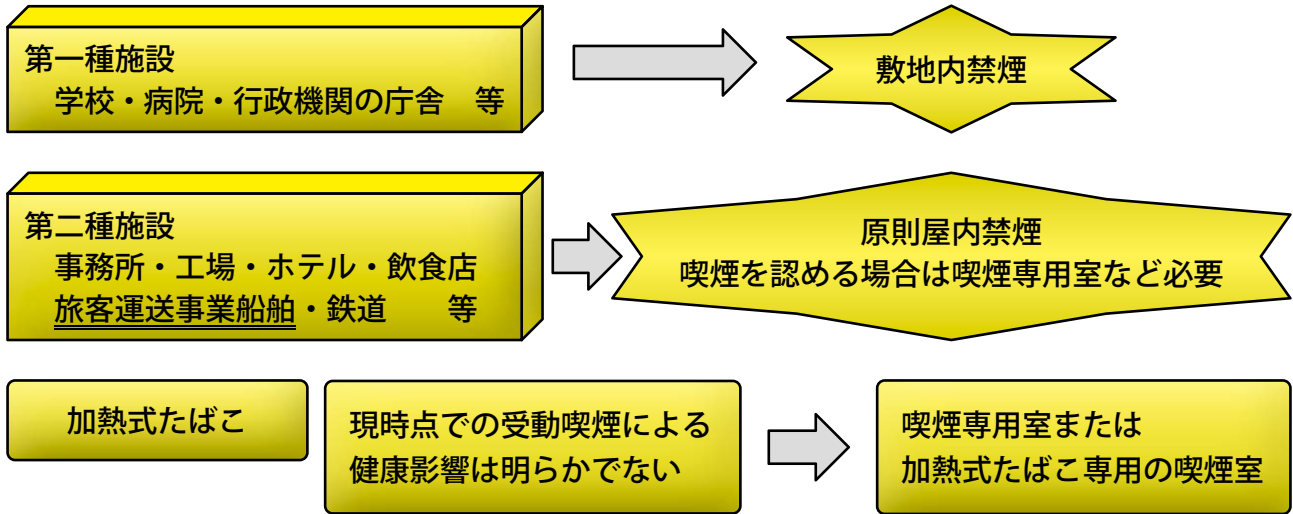
	肺がん	虚血性心疾患	脳卒中	SIDS	計
男性	627	1,571	2,325	73	15,030
女性	1,857	2,888	5,689		



出典：厚生労働省 「たばこ対策の健康影響および経済影響の包括的評価に関する研究」

改正健康増進法

令和2年4月1日より全面施行



受動喫煙の防止

禁煙が受動喫煙防止の最高の手段

職場における受動喫煙防止のためのガイドライン

(厚生労働省 令和元年7月1日 基発0701第1号) 抜粋

